

町内会・自治会アンケート結果 報告書

もりおかNPO連絡協議会

平成30年3月

調査概要

I 調査目的

このアンケートは、町内会・自治会の活動状況について、例えば「〇〇活動を行っている団体が何%」や「これから〇〇の活動に取り組みたい」ということを調査し、今後の町内会活動の支援策等の検討資料とさせていただくことが目的です。

II 調査概要

- ①調査時期 平成29年11月（締め切り24日）実施
- ②調査対象 盛岡市内の町内会・自治会長（383町内会・自治会）
- ③実施主体 もりおかNPO連絡協議会（盛岡市との協働事業）

III 調査結果

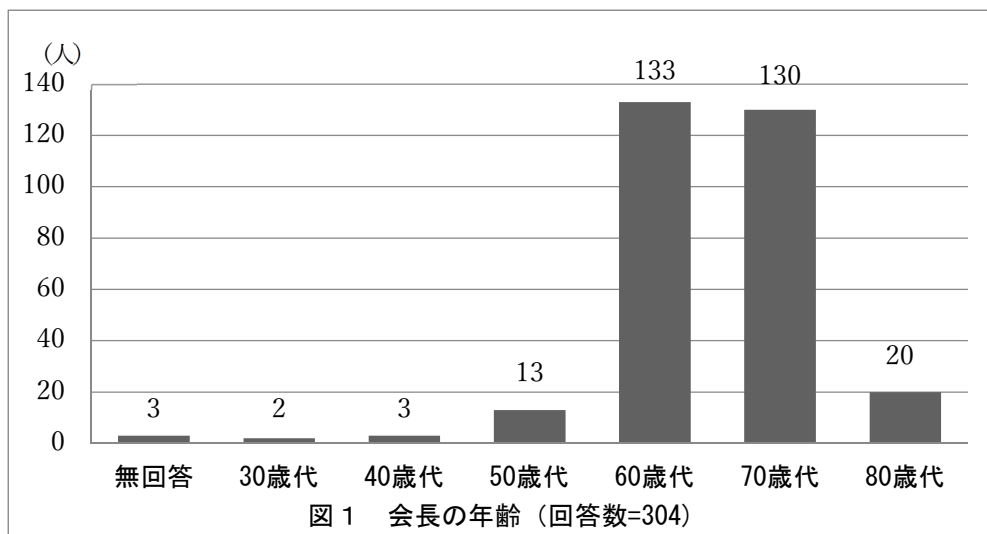
1. 町内会・自治会長について

今回の調査では、304名の会長の方々から回答をいただきました。会長は、94.4%が「男性」であり、年齢は「60代」と「70代」の方で、86.5%を占めていました（2ページ中 図1）。職業は「無職」が43.4%と半数近く、「自営業」が20.7%でした。また、図2（2ページ）は、町内会の仕事に従事した日数、図3（3ページ）は在職年数であり、多くの日数を町内会・自治会の仕事に従事している様子が伺えました。

在職年数で、1年目の方も多くみられ、町内会・自治会長としての職務内容がうまく引き継がれているのか気がかかったところです。逆に、今回の調査では23年在職されている方がおり、少なからず、長く在職している人も見受けられました。町内会における役員の交代がどのようになっているかについては、町内会・自治会の課題や自由記述の中でも多くの声が上がっており、「役員のなり手がいない」という状況が見え隠れしています。

1) 会長の性別 (回答数=304) 男性 94.4% 女性 4.9% 無回答 0.7%

2) 会長の年齢

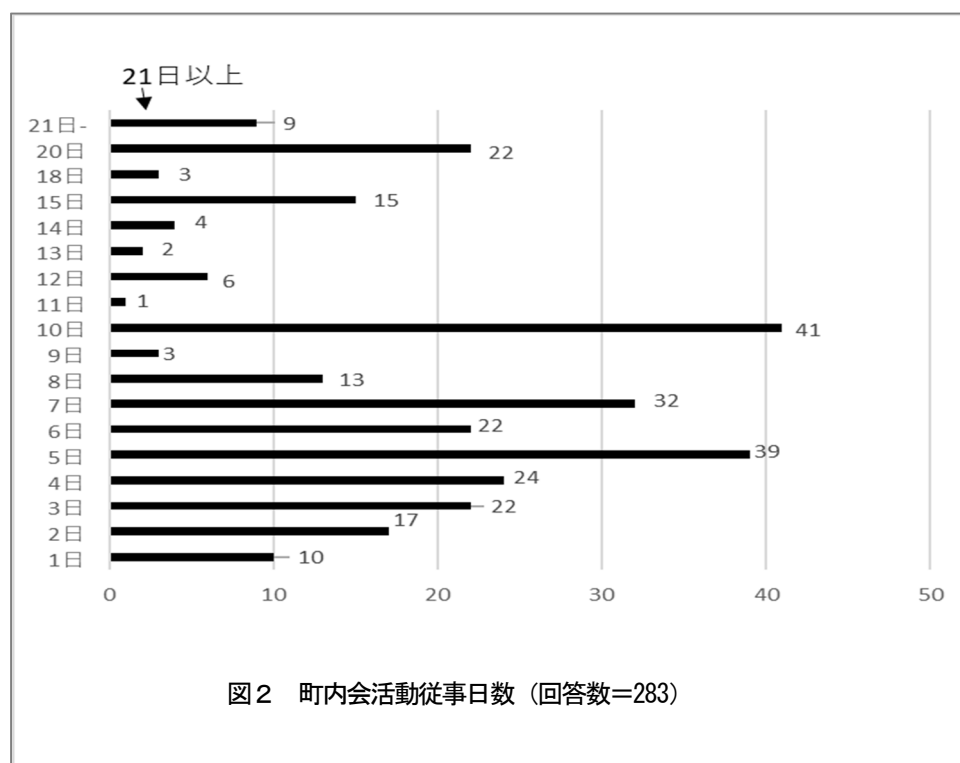


3) 会長の職業

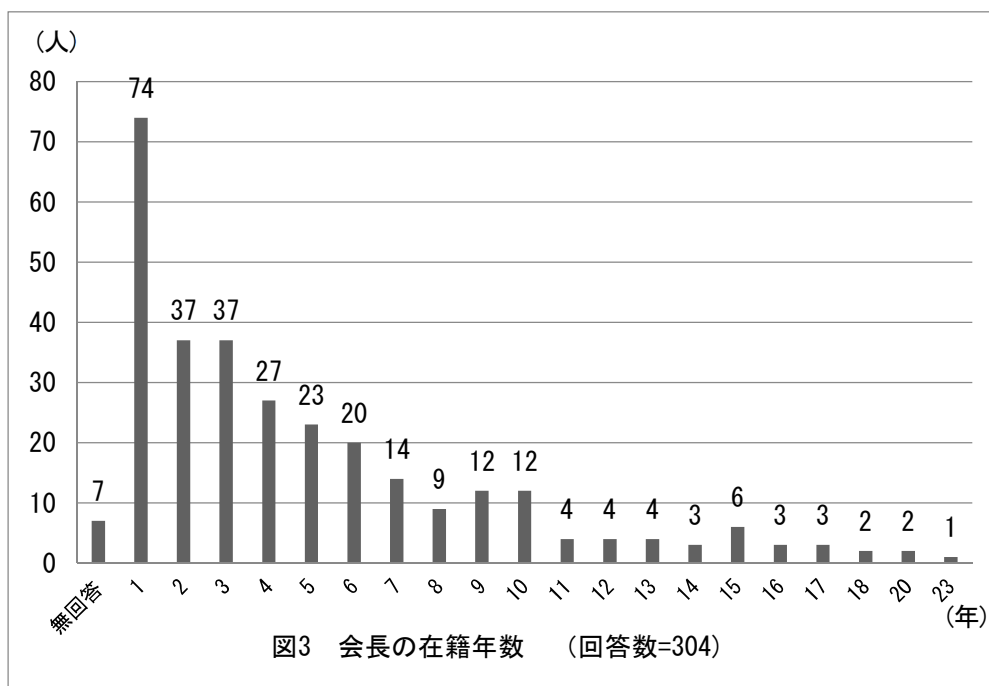
会社員 10.9% 公務員 4.6% 自営 20.7% 無職 43.4% その他 1.3%

無回答 1.3%

4) 町内会・自治会活動に月に何日ぐらい従事しているか



5) 会長の在職年数



6) 会長の選出方法

輪番制(当番制) 9.9% 投票制 6.3% 推薦制 73.4% その他 8.2%
 無回答 2.3%

2. あなたの町内会・自治会について

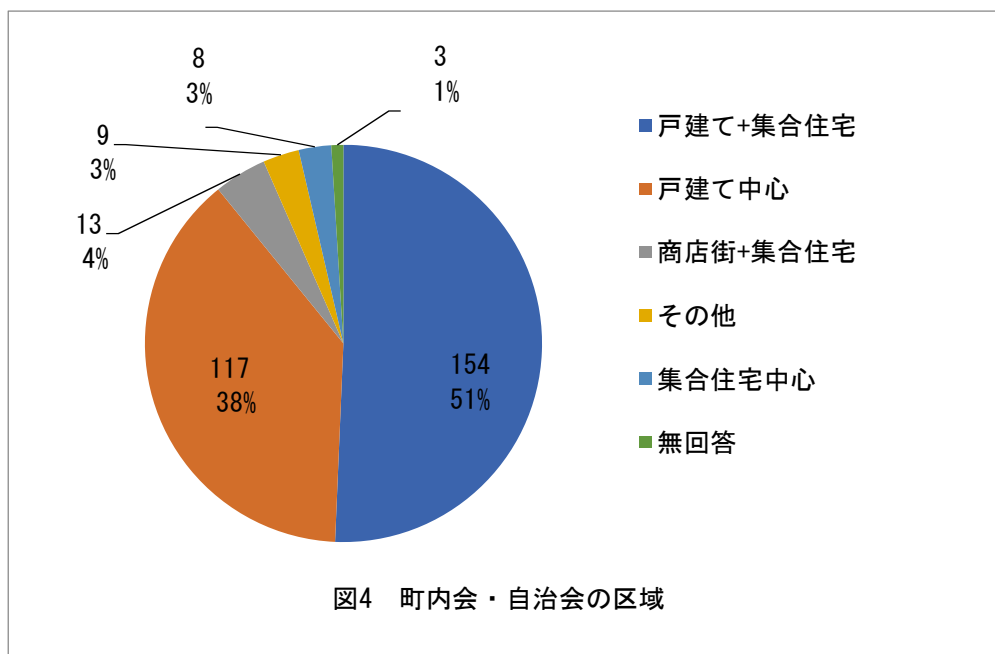
盛岡市では、51%が「集合住宅と戸建住宅が混在する地区」であり、38%が「戸建住宅の地区」であり、残り約10%に「商店街・戸建住宅が混在している地区」、「マンション等の集合住宅のみの地区」等の地域から成り立っています(4ページ中 図4)。

つぎに、現在の町内会・自治会の世帯数の規模について、63.8%の会長が「適切である」と認識していました。しかし、「多い(17.4%)」や「少ない(16.4%)」と認識している会長も33.8%おり、統合や再編を意識している会長もいることが伺えました。

また、町内会費（年額）について伺ったところ、1位が3,600円、2位が6,000円、3位が4,200円でした。なお、年額1万円以上を徴収しているところもありますが（5ページ 表1）、町内会・自治会のおかれている背景や会費の内訳に差があるため、一概に高い・少ないと言えるものではありません。

最後に、総会への出席状況を伺ったところ、多くの町内会・自治会では委任状と1～2割程度の実際の参加者で運営されていました（5ページ 表2）。

1) 町内会・自治会の区域



2) 町内会・自治会を運営するにあたり、現在の世帯数についてどう考えていますか
 適切 63.8% 多い 17.4% 少ない 16.4% 無回答 2.3%

3) 町内会・自治会費は世帯あたりいくらですか（※1世帯あたりの会費の年額）

多い額の順位〔10%以上〕

1. 3,600円 (26.6%)
2. 6,000円 (11.8%)
3. 4,200円 (10.8%)

表1 町内会費（年額・回答者数=297）

金額（円）	人数	%	金額（円）	人数	%
1,000	2	0.7	7,000	6	2.0
1,200	5	1.7	7,200	12	4.0
2,200	1	0.3	8,000	11	3.7
2,400	5	1.7	8,400	4	1.3
2,950	1	0.3	8,500	1	0.3
3,000	16	5.4	9,000	1	0.3
3,360	1	0.3	9,600	3	1.0
3,500	3	1.0	10,000	10	3.4
3,600	79	26.6	10,500	1	0.3
4,000	7	2.4	10,800	1	0.3
4,200	32	10.8	12,000	12	4.0
4,320	1	0.3	12,400	1	0.3
4,500	1	0.3	13,000	1	0.3
4,800	26	8.8	14,000	1	0.3
5,000	8	2.7	15,000	2	0.7
5,100	1	0.3	16,000	1	0.3
6,000	35	11.8	18,000	1	0.3
6,500	1	0.3	20,400	1	0.3
6,600	1	0.3	30,000	1	0.3

4) 総会への会員の出席状況

表2 総会の出席者（回答者数=304）

項目	人数	%
ほとんど委任状、役員中心の総会	28	9.2
出席は委任状以外では、会員の1割程度	97	31.9
出席は委任状以外では、会員の2割以上	106	34.9
世帯数が多く、規約で役員のみとしている	4	1.3
その他	67	22.0
無回答	2	0.7

3. 町内会・自治会の活動、事業について

1) 実施事業の状況と今後

表3は、町内会や自治会で実施されている「環境整備事業」「社会教育事業」「福利厚生等事業」「文化事業」について単独で開催されている事業が、コミュニティ地区で開催されている事業か、そして今後の実施希望と縮小や廃止について伺ったものです。

環境整備事業で単独開催事業は「防犯灯の維持管理」「清掃等美化活動」「資源回収」、コミュニティ地区開催事業で、「交通安全」「防犯活動」「防火防災活動」などが多いことが分かります。福利厚生等事業では、「運動会」以外が単独開催事業として行われています。社会教育事業でも単独開催が多くみられました。さらに、他の事業より文化事業では、コミュニティ地区の開催事業として行われていることが分かります。

今後、縮小や廃止をしたい事業が少なかったのが特徴で、町内会・自治会事業を何とか同様に継続していきたいという意識が感じられました。

表3 実施事業の状況

(人)

環境整備事業	単独開催	コミュニティ地区開催	今後実施したい	今後、縮小または廃止
防火防災活動	179	87	39	2
防犯活動	122	92	31	1
防犯灯の維持管理	249	27	9	3
清掃等の美化活動	256	44	13	4
花壇設置整備	199	26	16	12
資源回収	228	28	16	5
交通安全	119	98	22	2

社会教育事業	単独開催	コミュニティ地区開催	今後実施したい	今後、縮小または廃止
子供会支援	246	35	15	1
女性活動	140	46	29	6
老人クラブ	187	62	18	4

福利厚生等事業	単独開催	コミュニティ地区開催	今後実施したい	今後、縮小または廃止
盆踊り・お祭	162	70	8	6
運動会	67	104	10	14
敬老会	222	50	12	5
新宴会	170	40	16	7
慶弔事業	204	11	11	4

文化事業	単独開催	コミュニティ地区開催	今後実施したい	今後、縮小または廃止
講演会	63	91	21	3
映画鑑賞会	14	22	25	12
世代間交流事業	126	79	22	5
文化祭	45	109	17	9
演芸大会	22	69	19	11

2) コミュニティ地区で実施している理由

コミュニティ地区で開催する理由を自由記述していただいた一部が下記の抜粋したものです。やはり、1つの町内会や自治会では規模や内容として単独では難しい内容の事業を協働して実施していることが伺えました。

- 活動者数の減少、少子化
- 他地域との交流には世帯数が少ない
- 単独実施する
- 単独開催は負担が大きい
- 会場確保、経費節減、役員負担軽減、近隣の交流、対応意識による盛り上がり
- 参加人員の確保が難しいため
- 災害が広域化しているので連携確認のため。
- 単独開催は経費面で難しい
- 単独ではなく広域的に実施したほうが効率的、効果的である

など

3) 現在実施しているうち、今後継続して行いたい事業

ここでは、今後も継続して実施したい事業について、3つ以内で自由記述として答えていただいたものです。多くの事業が記述されましたが、突出して以下の4つの事業に集約されました。高齢化社会の特徴としての「敬老会」事業、コミュニティづくりとしての「お祭り」、リサイクル時代の「資源回収」、そして最近の豪雨や噴火などの自然災害に対応した「防火防災活動」という象徴的な結果でした。

1位 敬老会 2位 お祭り（盆踊り含む） 3位 資源回収 4位 防火防災活動

4. あなたの町内会・自治会の運営上の課題について

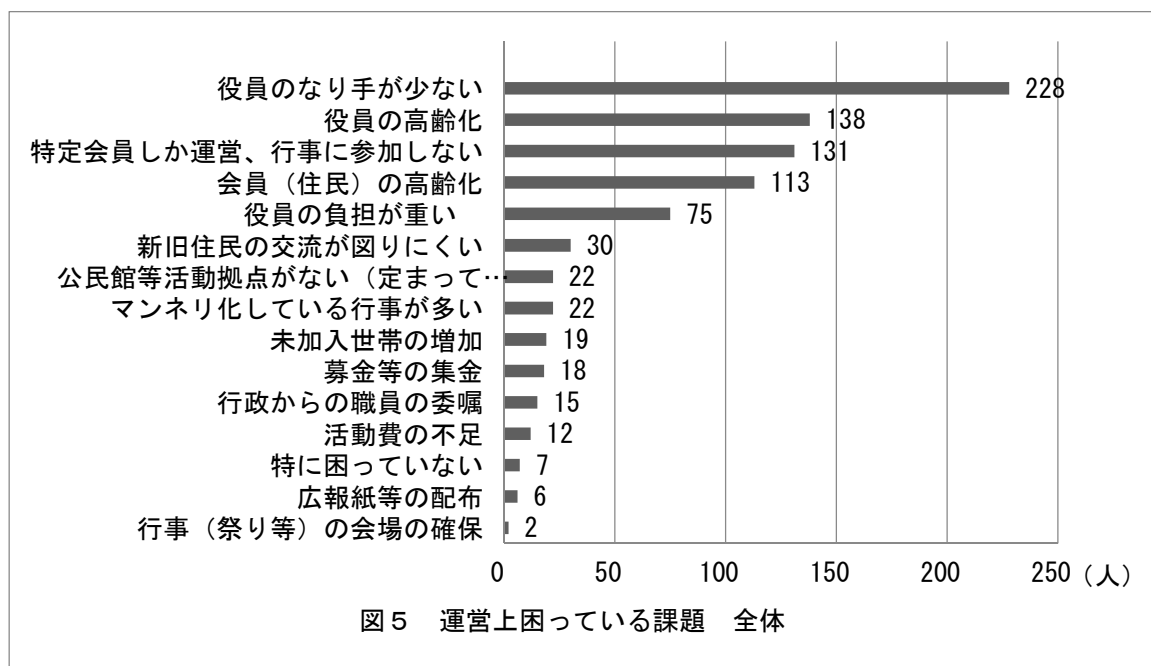
ここでは、町内会・自治会が運営上の課題について伺いました。特に困っている課題について、3つ選び順位をつけて答えていただきました。

1) 特に困っている課題を順に3つ挙げてください

表4 特に困っている課題

(人)

課題	第1	第2	第3	合計
役員のなり手が少ない	227	0	1	228
役員の高齢化	31	106	1	138
役員の負担が重い	6	47	22	75
未加入世帯の増加	5	13	1	19
会員（住民）の高齢化	15	57	41	113
特定会員しか運営、行事に参加しない	3	38	90	131
活動費の不足	2	5	5	12
公民館等活動拠点が無い（定まっていない）	0	5	17	22
行事（祭り等）の会場の確保	0	0	2	2
マンネリ化している行事が多い	0	5	17	22
行政からの職員の委嘱	1	1	13	15
新旧住民の交流が図りにくい	0	4	26	30
募金等の集金	0	1	17	18
広報紙等の配布	0	1	5	6
特に困っていない	5	0	2	7
その他	0	0	12	12



1番目は「役員のなり手がいない」、2番目が「役員の高齢化」、3番目が「特定会員しか運営・行事に参加しない」、4番目が「会員の高齢化」等であり、町内会・自治会を運営する人（役員）がいない、あるいは探せない状況にあるようです。

2) 課題を解決する具体的な方策

上記の課題を解決する方策があるか伺った結果です。

方策がある 16.1% 方策がない 70.4% 無回答 13.5%

7割もの会長が「方策がない」と答えています。「方策がある」と回答した会長にその具体的な方策を自由記述していただいた一部が下記です。

〔課題への方策（一部を抜粋）〕

- マンション入居者と交流を図り、退職者を町内活動へ（行事）参加依頼
- 現職、子ども会等に役員となってもらい若者の人材育成に努めている。
- 会長（役員）の負担軽減化、インセンティブが必要
- 役員の実力あるのみ。
- 隣接町内会との合併（予算、役員等）
- 行事参加に対して個別に勧誘すれば結構参加が得られる。
- 子ども会に協力を依頼し、父母を啓発
- 組織改編
- 次世代との話し合いを多く、行事に参加してもらおう。
- 町内会に対する人的、経済的支援の拡大

5. 町内会・自治会以外の団体との連携について

町内会・自治会以外の団体との連携について回答していただいた結果です。表5より連携している団体は、「老人クラブ」と「PTA」が多く、地元企業等や市民活動団体とはあまり連携していないことが分かりました。しかし、今後の連携については、「必要」が33.9%、「行事によっては必要」が49.0%と多くの町内会・自治会長が、何らかの形や状況によって他団体との連携は必要と考えていました。

残念ながら今回の調査では、どのような団体との連携を模索しているかまでは分かりませんでした。協働による地域づくりが進んでいる状況の中で、今後、地元企業等や市民活動団体との連携が考えられます。

1) 町内会・自治会活動に町内会・自治会以外の団体の参加

表5 参加している団体

団体	回答数	%
PTA	121	43.5
老人クラブ	176	63.3
地元企業等	42	15.1
市民活動団体	29	10.4
その他	57	20.5
参加なし	60	21.6

2) 今後の他団体との連携の有無

必要 33.9% 不要 11.2% 行事によっては連携 49.0%

無回答 5.9%

6. 町内会・自治会の将来について

最後に、町内会・自治会の将来について伺いました。これは、統合や再編を検討したいという町内会からの声の一部あったことから、町内会・自治会の統合や再編についてご意見をいただきました。

1) 少子高齢化が進む中、町内会・自治会運営の在り方を検討する上で、統合・再編についてどう考えますか。

表6から、会長の15.5%が「統合・再編は必要である」と答えており、一部の会長が町内会・自治会がおかれている状況（世帯数や面積等）などにより、統合・再編について意識しているものと考えられます。しかし、33.6%が「統合・再編は必要だが諸事情で難しい」と答えています。また、「統合・再編は必要がない」という回答も33.6%ありました。

また、表7は「統合・再編が必要である」と回答した会長が必要と考える支援内容の一部抜粋です。

表6 統合・再編について

統合・再編	人数	%
統合・再編は必要である	47	15.5
統合・再編は必要だが諸事情により難しい	102	33.6
統合・再編は必要ない	102	33.6
わからない	37	12.2
無回答	16	5.3

2) 統合・再編どのような支援があればよいか

表7 統合・再編の支援策（統合・再編が必要と答えた方）

行政との協働が進捗するのであれば、人的経済的支援が必要
福祉協議会と同じような事業が多いので予算等含めて考慮して欲しい。
市の担当が主導して、町内会の世帯数から新しい統合案を提示してほしい
近隣町内会との統合
市役所、学校、警察、町内会連合会の指導支援
町内に居住し集会に参加する人を望んでいる
当該町内会への必要性の説明、フォロー
学区、防犯、消防などで町内や地区で分かれてやりづらいので解消を
業務の単純化、明確化
市であまり町内会に負担をかけないでほしい
統合してもいいという意志のある町内会同士の橋渡しをしてくれる人がいればいいと思う。
行政からの指導、案内、説明等
大人数が集まれる場所の提供
自治会持続には金がかかる。人材も必要。行政サイドの支援が必要。
行政によるマッチング等の強力な支援

自由記述の傾向

多くの会長から自由記述に回答をいただきました。すべてを記録として残しておりますが、いただいた回答を同じ内容や傾向ごとに集約し、それぞれに特徴的な名前を付け、その関係を示した図です（図6）。

住民の生活にかかわる内容が中心にあり、地域の存続に関する質問群と密接に絡んでいました。またその背景に少子高齢化があり、お金など含め、住民の負担感つながっている状況が見えてきました。その解決に行政（活動拠点を含む）の支援を求めている図式でした。

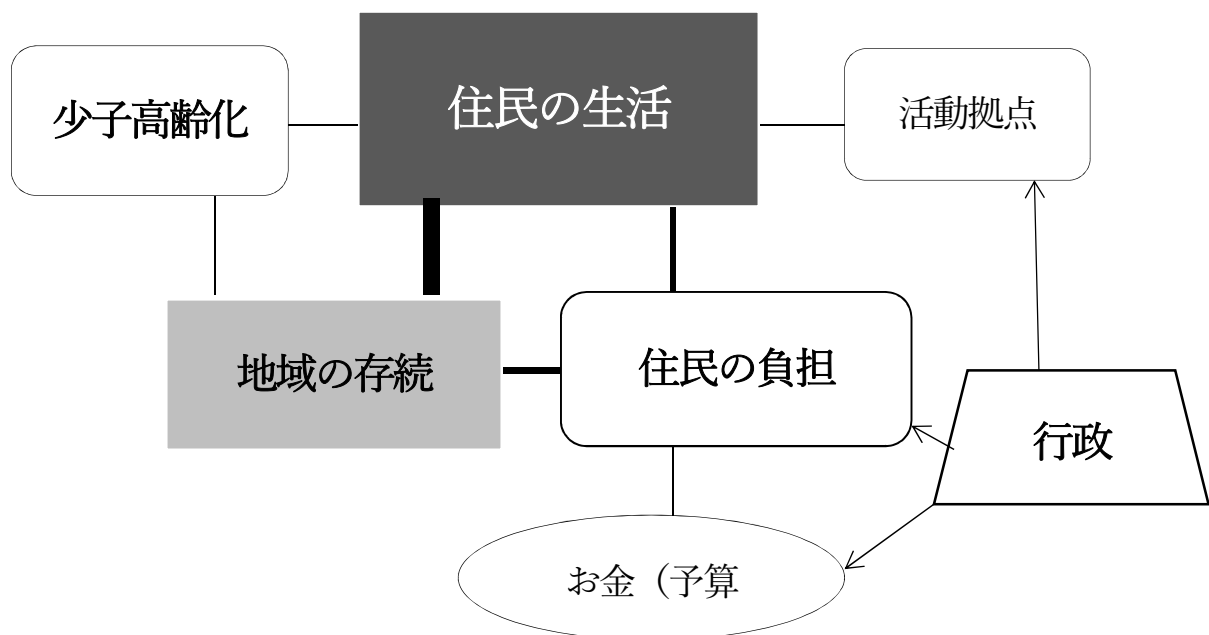


図6 自由記述の関係性